

中部産業遺産研究会 会報 第37号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

新年明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願いいたします。

・名古屋開府 400 年記念 写真パネル展と講演会の報告

寺沢安正

テーマ：「名古屋のまちづくりを支えた堀川・新堀川」 産業遺産と企業を訪ねて

中部産業遺産研究会は、名古屋都市センターの共催、産業考古学会・名古屋市・愛知県教育委員会・名古屋市教育委員会・名古屋商工会議所の後援を得て、2010（平成 22）年 11 月 22 日（火・祝）から 12 月 5 日（日）まで、名古屋都市センター金山南ビル 11 階まちづくり広場・企画展示コーナーにおいて「名古屋のまちづくりを支えた堀川・新堀川」展、また、期間中の 11 月 28 日（日）13：00～17：00、まちづくり広場・11 階ホールにおいて講演会と公開定例研究会を開催した。



パネル展会場

今年名古屋は開府 400 年を迎えた。1600（慶長 5）年、天下分け目の関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、1603 年に征夷大將軍となり実権を掌握し、1610（慶長 15）年、名古屋に奉行をおき名古屋城の築城にとりかかり、福島正則が堀川の御普請奉行となり、現在の七里の渡しから名古屋城下まで延長約 7.4km の開削工事に着手し翌年完工。1612 年、尾張名古屋は城で持つとうたわれているように、金シャチを抱いた五層の天守閣が完成、1615（元和 1）年に本丸御殿が造営された。ここに江戸、明治、大正、昭和時代にいたる名古屋の“都市づくり”と“ものづくり”の歴史が始まった。

今回の展示会は、名古屋の中心に開削された堀川と新堀川の役割について、“ものづくり”の名古屋を興した企業や今も残っている産業遺産を 41 枚のパネルで紹介した。また、講演会は中部産業遺産研究会員の 5 名で発表した。その実施概要を下記のとおり報告する。

〔堀川〕

1 尾張名所図会・古地図

- (1) 清須越しの大移動に運河堀川を 大量の資材運搬に最適
- (2) 四間道界隈の繁栄を育んだ堀川
- (3) 熱田湊常夜灯
- (4) 時の鐘

2 工場と産業遺産

- (1) 堀川沿岸の製材工場と貯木場 材木業は沿岸戸数の 37%を占めた
- (2) 堀川沿岸の生産工場 1：帝国撚糸紡績・三井名古屋製糸
- (3) 堀川沿岸の生産工場 2：日本陶器
- (4) 堀川沿岸の生産工場 3：愛知時計電機
- (5) 堀川沿岸の生産工場 4：堀尾染色工場
- (6) 水主町発電所・平成堀川輸送 堀川沿いの発電所と 275kV ケーブル送電
- (7) 堀川沿岸に紡績工場進出 綿花や石炭の運搬に最適

3 運河・橋・水処理

- (1) 中川運河：名古屋港と都心を結ぶ物流幹線
- (2) 松重閘門：堀川と中川運河・名古屋港を結ぶ
- (3) 庄内用水と堀川の取水口・元杓樋

- (4) 堀川の取水量を調節した黒川樋門
- (5) 名城水処理センター：堀川の重要な水源
- (6) 千年水処理センター：工業用水の水源
- (7) 堀川に架かる鉄道橋梁の変遷 明治24年製鉄橋梁を始め6鉄道線の橋脚
- (8) 堀川の橋

4 駅・倉庫

- (1) 堀川駅：瀬戸の陶磁器を全国・世界へ
- (2) 堀川沿岸に倉庫業が発達 堀川から名古屋港に倉庫業は競争拡大

5 実業家・技術者

- (1) 浅野吉次郎と合板
- (2) 明治・大正の木材業界を支えた名古屋業界の先達 八代鈴木惣兵衛茂三郎の遺産と足跡

[新堀川]

1 尾張名所図会・古地図

- (1) 浸水被害に悩んだ精進川下流域 名古屋東部低地を熱田湾に南下
- (2) 熱田兵器廠進出を契機に生まれた新堀川 開削土砂で鶴舞公園も整備
- (3) 裁断橋
- (4) 精進川改修工事

2 工場と産業遺産

- (1) 名古屋の近代工業を支えた新堀川 1
熱田兵器廠・日本車両・名古屋電灯熱田火力発電所
- (2) 名古屋の近代工業を支えた新堀川 2
名古屋瓦斯・日本碍子・熱田セメント工場・電気製鋼所
- (3) 名古屋の近代工業を支えた新堀川 3
第日本ビール名古屋工場・東海電極製造・服部商店
桜田工場・服部商店熱田工場
- (4) ガス器具製造 100年のパロマ
- (5) 国産プラグ製造の先駆者・日本特殊陶業

3 運河・駅・水処理

- (1) 姥子川運河：熱田の港と駅を結ぶ水脈
- (2) 新堀川を歩いて調べた産業遺産
- (3) 熱田ポンプ所：名古屋の水処理
- (4) 新堀川につながる下水処理場：堀留・熱田・伝馬町

4 橋・倉庫

- (1) 記念橋
- (2) 中京倉庫

5 実業家・技術者

- (1) 新堀川の改修・水道：上田敏郎
- (2) 特許「ベルトー口」で出発した中央製作所
- (3) 榊信秀とエルモ社

[講演会]

- 1 清須越しに堀川の運河が活用された 大橋公雄
- 2 堀川に架かる橋と周辺 永田宏・井土清司
- 3 精進川の開削と新堀川 浅野伸一・中住健二郎

[実施結果]

期間中の入場者 1,761 名、講演会は 106 名の聴講者であった。また、期間中のアンケートなどにみられた主な内容は



講演会・佐々木会長挨拶



講演会・大橋会員の報告



講演会・中住会員の報告

- (1) 名古屋で明治・大正時代に興った企業の現在までの足跡が理解できた。
(2) 古地図と現況の地図を比較できたら、より興味が増してくると思った。
(3) 地道に研究され展示されたパネル内容を図録か小冊子にまとめてほしい。
など、比較的好意的に受け止められ終えることができた。

第107回公開定例研究会の報告

井土清司

新入会員の紹介

7月16日入会の朝井佐智子さん、本人より、研究会での発表をとの意欲的な挨拶があった。

1. 研究報告、調査報告

[107-11-01]「産業遺産の見方・調べ方 牛舎・サイロ」 水野信太郎(40分)
資料(A3版両面2枚) 質疑10分

PPの画像を併用し、サイロの構造材料種別による見方として、木・石・煉瓦・コンクリート・陶器ブロック・鋼・樹脂等が利用される。形式による見方として、タワーサイロからバンカーサイロへ移り、現在はロール法へと変わっている。材料の開発とより省力化と経済的対応による。

牛舎については、筋違(すじかい)、方杖、トラス(三角構造)の利用と、「対束小屋組」と「腰折屋根」などより広い空間を得る構造へと変化した。また、飼育方法も対頭式から対尻式へ変わっている等々の発表があった。

また、この他、農業史を含めた教養講座的な豊富な内容であった。(詳細は資料参照してください。)

[107-11-02]「三菱A型(甲型)乗用車の誕生」 杉本漢三(20分)
資料なし 質疑5分

PP画像により、1917(大正6)年から三菱造船神戸造船所で試作を開始し、翌年完成した。すべて手作りで国産品を用いて造った。フィアットを参考に22台生産し販売も行われ乗用車量産第一号であった。生産を打ち切った三菱が再度自動車生産に乗り出したのは、戦後の国民車構想に対応して、新三菱重工業名古屋製作所で開発された三菱500であった等々の発表があった。

2. その他の諸報告、保存問題など

[107-21-01]「アナログ送信アンテナ保存に関する件(提案)」 佐々木享

佐々木会長より、2011年7月に予定されているテレビ放送のデジタル化によって不要となるアナログ放送設備および送信アンテナ等の保存について、次のとおり提案があった。

去る9月26日に開催された例会としての名古屋テレビ塔及びNHKの見学は、時宜に適した見学で、いろいろ学ぶところがありました。

とりわけ、アナログ放送の廃止が目前に迫っていることについて、考えさせられました。すなわち、アナログ放送が予定通りに明年7月に廃止されると現在の送信設備一切が無用になるはずですが、そうなると、これらはたちまちのうちに遺物という産業遺産になる運命なので、わたくしたち産業遺産研究に関心をもつ者として、その行方に関心をもつ必要がありそうだと強く感じました。実際、昨年1月19日の中部産業遺産研究会例会でわたくしたちは、使用されなくなったアンテナは廃棄すべきことが法令に規定されていることを永田宏さんから教えていただいたところでした。

見学会の際のお話では、名古屋テレビ塔の大澤社長はこのことに気づいておられるようなので、わたくしたちとしては、何らかの行動を起こすべきではないかと考えました。

会員各位のご意見をいただき、必要な行動をおこすべきかと考えます。

考えるべき方策は、少なくとも2方面にわたります。

第一は、名古屋テレビ塔の問題です。わたくしたちの関心事からいえば、産業遺産の保存問題ですが、元来名古屋テレビ塔はテレビの送信アンテナを設置するために設置された経緯があり、したがってアンテナの保存は、東京タワーとは違って塔の名称の存続にも関係するはずと思われます。

欲をいえば送信設備一式を保存したいところですが、それが難しいのであれば、アンテナは是非保

存したいと思います。どこにどんな形で問題を提起すべきなのか、いろいろ考えられるのですが、産遺研の明年のシンポジウムのテーマは産業遺産の保存に関連させることが予定されているとかがっているので、格好の話題かと存じます。文化庁が注目し、登録文化財になったのは、主として戦後最初の高い鉄塔だった点にあるようにわたくしには思われますので、廃棄される運命にある産業遺産としての放送設備少なくともアンテナに注意を喚起する必要があることを訴えたいのです。

研究会として起こすべき行動について、ご相談いただきたく存じます。

なお、現副会長である放送関係に詳しい永田宏さんにご相談したところ、結論を先にいえば、学会と中部産遺研が保存方に行動を起こすことに賛成して下さいました。法律には撤去しなければならないとあるが、送信の電源を切れればよいのではないかと、実際に東京の場合、日本テレビが四谷から新橋(お台場?)に移転した際に、旧アンテナの一段を新しい本社の玄関前に陳列している例がある由でした。

また、別の機会にお会いした石田正治さんからうかがったところでは、名古屋テレビ塔の場合、いわば塔そのものの一部なので、NHKのアンテナは残すと聞いているとのこと。そういう話がすすんでいるなら幸いです、わたくしたちとしては手遅れにならないよう確認する必要があるかと存じます。

どこ宛にどのような形で要望書を提出するかなど、智恵を頂戴したいと思います。

第二は、全国規模の問題です。すなわちコトは名古屋に限らないので、産業考古学会としてアナログ放送の施設の保存方を提起すべきではないか、という問題です。手遅れになってはいけなくて、慧眼の国立科学博物館の鈴木一義さんあたりはすでに何らかの手を打っておられるかも知れませんが、当学会が保存方を訴えることは、その応援になろうかと推測します。当学会の分科会構成は放送・通信関係が弱体のように思われますので 違ったらお詫びしますが、わたくしたち中部産業遺産研究会から問題を提起する意味はあろうかと考えます。

以上、各位のご意見をいただきたく存ずる次第です。

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

- [107-31-01] 研究誌『産業遺産研究第18号』について 浅野伸一(1分)
2011年5月発行を目指しています。原稿提出などにご協力をお願いします。
- [107-31-02] 会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集
原稿を募集しています、ご協力をお願いします。

4. シンポジウム

- [107-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第29回
「私のまわりの産業遺産 - 記録・保存・活用の事例 - 」報告 山田 貢(5分)
第29回は、会場が「名城大学名駅サテライト」に変わり、2011年3月5日(土)の開催です。
事例原稿が40件ほど確認できています。この内、7~8件を発表する予定にしています。

5. 見学会、その他の催し物

- [107-51-01] 「ものづくり文化再発見! ウォーキング大会」報告 柳田哲雄・寺沢安正(5分)
瀬戸コース、10月10日(日)に開催し、109名の参加があった。
堀川コース、11月13日(土)に開催し、112名の参加があった。来年も実施を予定しています。
- [107-51-02] 「電力関係パネルの貸し出し」
名東区生涯学習センターの講座に、昨年の電力関係のパネルを貸し出し、好評であった。今後もパネルの利用を図って行きたい。

6. 文献紹介、資料紹介 ()内は紹介者

【その他の資料】

- [107-63-01] 「名古屋都市センター ニュースレター vol.84」 (事務局)
[107-63-02] 「名古屋都市センター ニュースレター vol.85」 (事務局)
[107-63-03] 「名古屋都市センター まちづくり来ぶらり 第51号」 (事務局)
[107-63-04] 「名古屋都市センター まちづくり来ぶらり 第52号」 (事務局)

- [107-63-05] 「岐阜産業遺産研究調査会会報 No. 77」 (事務局)
- [107-63-06] 「九州産業考古学会報 第14号」 (事務局)
- [107-63-07] 「日本の技術史をみる眼・名古屋テレビ塔とアナログ放送半世紀 disc1」 (事務局)
- [107-63-08] 「日本の技術史をみる眼・名古屋テレビ塔とアナログ放送半世紀 disc2」 (事務局)

7. 出版広報事業

- [107-71-01] インターネット
 - ・ <http://csih.sakura.ne.jp/> 左記に変更し内容が変わりました。一度みてください。
- [107-71-02] 中部産業遺産研究会の本

8. 委員会、役員会、研究分科会

- [107-81-01] 幹事会・役員会
 - ・ 第2回幹事会 2010/11/04(木)～電子メールにて開催
- [107-81-02] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第29回 実行委員会
 - ・ 第3回 2010/09/26(日)15:30～17:00 名古屋事務所
 - ・ 第4回 2010/11/28(日)11:00～12:00 名古屋都市センター11F 交流サロン
- [107-81-03] パネル展「名古屋のまちづくりを支えた堀川・新堀川」勉強会
 - ・ 第6回 2010/10/03(日)14:00～16:30 名古屋都市センター13F
 - ・ 第7回 2010/11/07(日)14:00～17:30 名古屋都市センター13F
- [107-81-04] 研究誌『産業遺産研究第18号』編集委員会
 - ・ 第1回 2010/09/26(日)12:20～13:20 NHK名古屋放送局北側 TIGER CAFÉ
 - 今後の編集委員会は電子メールにて行う

9. 総務・事務局関係

- [107-91-01] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他
 - ・ 第85回岐阜産業遺産調査研究会 2011/01/29(土)14:00～ 岐阜大学地域科学部2階
 - ・ 第108回定例研究会 2011/01/30(日)13:00～ 名古屋大学
 - ・ 第29回シンポジウム「日本の技術史をみる眼」2011/03/05(土)午後 名城大学名駅サテライト
 - ・ 第109回定例研究会・見学会 2011/03/27(日)13:00～ JR東海「リニア・鉄道館」予定
 - ・ 第35回産業考古学会総会・一般講演会 2011/05/21(土)～22(日) 都立産業技術高専荒川キャンパス
 - ・ 第19回総会・第110回定例研究会 2011/05/29(日)13:00～ 会場未定 一週間遅くしました。
- [105-91-02] 会員異動 ()内は入会日・退会日
 - 入会：伊藤仁詞 (2010/12/27)
 - 退会：阿部 聖 (2010/11/28)・平川竜一 (2010/11/28)・前田晃宏 (2010/11/28)・山本信雄 (2010/11/28)

・第108回定例研究会の開催について

開催日 2011/01/30(日)13:00～

会場 名古屋大学 (名古屋市千種区不老町・地下鉄名城線「名古屋大学」下車)

開催場所はまだ決まっていません。問合せは大橋公雄幹事が天野武弘幹事まで。

内容 1. 研究報告、調査報告

「産業遺産の見方・調べ方 鋼材圧延機」 寺西克己(予定)

「服部工業の歴史的鑄造工場と三州窯の技術遺産」 天野武弘・野口英一郎(予定)

2. その他の諸報告、保存問題など

「アナログ送信アンテナ保存に関する件(提案)」 佐々木享(予定)

3. 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

4. シンポジウム

5. 見学会、その他の催し物

その他

・事務局からのお願い

当会は1973年に「愛知技術教育研究会」に始まり、今年で37年になります。1984年に「愛知の産業遺跡・遺物調査保存研究会」が愛知技教研を母体にして発足し26年になります。そして1993年に「中部産業遺産研究会」が設立されて17年になります。当会は、そのルーツから数えて区切りの年が3から4年後にあります。記念事業として何か案があれば提案してください。

・お知らせ

ホームページの変更

ホームページを右記に変更し、内容も変わりました。 <http://csih.sakura.ne.jp/>
毎日見て「中部産業遺産研究会」や「中部産遺研」で検索にかかるようにしましょう。

「ものづくり文化再発見！ウォーキング大会」の報告

瀬戸コース（COP10パートナーシップ事業）は、2010/10/10（日）に先日の雨が上がり良い天気にも恵まれ、無事に終了しました。参加者は109名でした。

堀川コース（名古屋開府400年祭パートナーシップ事業）は、2010/11/13（土）に行われ曇っていましたが、雨天にならなくて良かった。事前申込は69名だったが、欠席者が27名あった。参加者は当日に43名あり、合計112名であった。

無事に瀬戸コース・堀川コースを終えることができました。

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第29回の開催

開催日 2011/03/05（土）午後（受付開始12:00）

会場 名城大学名駅サテライト（名古屋市中村区名駅3-26-8 名古屋駅前SIAビル13F）

テーマ 「私のまわりの産業遺産 - 記録・保存・活用の事例 - 」

問合せ 実行委員会事務局 山田 貢まで。

研究誌『産業遺産研究第18号』編集委員会

論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。

会報編集委員会より

編集委員の募集や、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。原稿はテキスト形式で作成していただくと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。

原稿送付先：野口英一朗 noguchi.d5@dion.ne.jp（アドレスにご注意下さい。@の前にドット。）

電子メールをお持ち会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事（hidekih@wine.plala.or.jp）までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

中部産業遺産研究会会報 第37号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.37 2011-1

発行：中部産業遺産研究会

発行人：佐々木享

発行日：2011年1月1日

編集委員：野口英一朗・伴公太・中住健二郎・橋本英樹

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付

中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>に変わりました。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.